

●令和2年度 第1回 日南市総合教育会議 会議録

R02/12/10 総務・危機管理課（総務係）作成

- 1 日時 令和2年11月24日（火） 13時30分～14時31分
- 2 場所 日南市役所 プレハブ会議室（北301号室）
- 3 出席者 日南市長 崎田 恭平
日南市教育委員会
教育長 都甲 政文
委員 崎村 洋子
委員 郷谷 純一
委員 黒木 由香
委員 別府 信一
- 4 事務局 総合政策部長
総務・危機管理課（課長、課長補佐兼総務係長）
教育部長
学校教育課（学校教育担当監、課長補佐兼管理係長、管理係主査、
課長補佐兼教育係長、教育係指導主事）
生涯学習課（課長）
- 5 協議事項 (1) 中学校の制服について（市内全校の統一化・LGBT配慮）
(2) いのちの教育推進事業について
(3) その他
① GIGAスクール「1人1台端末」について
② 日南市就労支援ソリューションについて
③ SNSについて
- 6 会議録 別紙のとおり

(別紙)

発言者	発言内容
総務・危機 管理課長	<p>令和2年度、第1回目の日南市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>本日は、ご多忙な中、また、第8回教育委員会の前に、ご参集いただき、ありがとうございます。</p> <p>それでは、お配りしております会次第によって進めさせていただきます。</p> <p>まず初めに、市長よりごあいさつをいただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。</p>
市長	<p>本年度、第1回目の総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。</p> <p>今年度はイレギュラーなことが多く、教育委員会におかれましては、いろんなことが起きた1年だったなと思ひております。何を言ひましても、まずは新教育長の就任があり、一斉休校でスタートし、学校現場においてはさまざまな新たな対応を次々とやらないといけなひ状況がありましたので、大変なご苦勞があつたものだと思ひております。</p> <p>総合教育会議の中で議論して、お願ひしてまいりましたのが、LGBTの対応から制服のことと、辻由紀子さんにお願ひしている中で、いのちの教育をスタートしていただいたことが、大きなところだと私自身は思ひておひまして、今年度の前半は、そういったところの推進が、この総合教育会議の場でなかなかできなかつたところは残念に思ひておりますけれども、年度後半にしっかりとそういったところまで、残り半年でも、今まで積み重ねてきたものがありますので、しっかりと形になるように、生かしていきたく思ひております。</p> <p>今日は、この後、教育委員会があるということで、時間に限りがあると伺つております。テーマが多いので、全部終わらなかつた分は、すぐ来月あるということなので、今日できなかつたテーマは来月に持ち越していきたく思ひているところでございますけれども、今日は忌憚のないご意見をお願ひ申し上げまして、あいさつに代えさせていただきます。</p>
総務・危機 管理課長	<p>それでは、早速でございますが、協議事項に入らせていただきます。</p> <p>総合教育会議につきましては、関係法令等の規定により公開することとされておひり、本日は、傍聴もお越しいただひておひります。ありがとうございます。また、後日、本日の会議録を作成しまひして、市のホームページで公開をさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>それでは、ここからの進行を市長のほうにお願ひしたいと思ひます。市長、よろしくお願ひします。</p>
市長	<p>それでは、協議事項につきまして、私のほうで、進めさせていただきます。</p> <p>はじめに、「中学校の制服について」を議題といたひします。学校教育課の説明をお願ひします。</p>

指導主事	<p>学校教育課の吉野でございます。よろしくお願いいたします。資料は1・2ページをご覧ください。中学校の制服検討に向けて、まず、目的でございますが、誰もが快適に安心して学校生活を送ることができるように、現行の制服を見直して、現状に合った制服決定を日南市全体でおこなう、これが最大の目的でございます。</p> <p>では、なぜここに至ったかという経緯を簡単にご説明いたします。内容については2番でございます。昨年度、わかすぎ塾というものがございまして、これに関しては中学校の生徒会代表が各学校から集まって、さまざまな問題に対して自分たちで解決していくと、そういう会でございます。昨年度はLGBTの研修をおこなった訳でございますが、その中で制服について大変困っている子どもさんの話から、そういうところから自分たちの制服はどうかというところで協議を進めてまいりました。そして、では今、日南市の制服はどんな現状にあるのかというところを問うたところ、子どもたちの中から、7割以上の生徒さんが、すべての生徒を対象としたアンケートの中で、こう答えております。「見直しが必要だ」と。それを受けまして、日南市として、どのように変えていくかということをや昨年度から検討をしてまいったところでございます。</p> <p>本年度は、さきほど市長からもありましたとおり、コロナ関連でなかなか思うように進まなかった中ではございましたが、本年度、そして来年度に向けて、このように3番の日程で、制服変更検討に向けて進めていきたいと考えております。まず令和2年度です。令和2年度については、アンケートを実施いたします。このアンケートについては、どのように制服を変えていくかという視点で、市内の全生徒、そして中学生の保護者、ひいては、小学校4年生・5年生の保護者と書いておりますが、ここが実際に新しい制服を着用する家庭になります。ここを対象にしたアンケートを今、現在取っているところでございます。そして、各学校では職員会議を開催し、先生方の意見を集約しているところです。</p> <p>また、制服検討委員会を発足して、この制服検討委員会の中で、どのような制服が子どもたちにとって快適に安心して送れる制服であるのかというところを決定していく機関を発足いたします。実際に令和3年度には、その内容が具体的な形となり、制服が決定していく、進む計画ではございます。そして、令和4年度4月より、現、小5の子どもたちです。この子どもたちが新しい制服を着るということで、計画を立てております。</p> <p>4番の現在の詳細なんですが、先ほども申したとおり、各学校においては、制服変更に関する理解を求めるために、先生方、そしてPTA役員の方々に説明をおこない、保護者のほうにアンケートを実施し、回収に至っているところでございます。また、職員会議を各学校でおこなってもらい、先生方の意見を今集約しているところです。</p> <p>今後ではございますが、11月30日からと書いておりますけれども、再度、子どもたち、生徒です。全生徒にアンケートを実施して、どのように変えていくべきかということを諮ってまいります。そして、本年度の1月あたりには制服検討委員会を</p>
------	--

	<p>発足して、その中で具体的な制服を決定していくということを構想しております。</p> <p>2ページは、その、今説明した内容を「生徒会」「各学校」「検討委員会」という欄で、進み具合を予定しているタイムスケジュールでございます。先ほども申したとおり、この内容でいけば、令和4年度の4月から、新しい制服を着用する子どもたちがいるということになってまいります。現在、すべての学校において、丁寧に、そして1つずつ説明をしまっているところではございます。今現在のところ、予定していた計画どおりには進んでおりますので、また今後とも何かありましたら、説明させていただきたいと思っております。以上でございます。</p>
市長	<p>はい、説明が終わりましたけど何か、これ、教育委員会のほうでも議題になったことがあるんですかね。教育委員会の会議の中で。</p>
教育長	<p>そうですね。はい。</p>
市長	<p>生徒への説明は終わったんですよ。保護者とか地域への説明は。</p>
指導主事	<p>これ、今後になってくるかと思えます。今現在、生徒会、そしてPTA役員、こままでは終わっております。今後、もっと広げて、段階を追って説明していく必要はあるかと思えます。</p>
市長	<p>で、そのアンケートの結果が今度出てくるということなんですね。保護者アンケートの結果が。</p>
指導主事	<p>はい。</p>
市長	<p>どういったことを聞いているんですか、アンケートの中では。</p>
指導主事	<p>保護者に関しては、制服を考えるうえで、どういった視点を重視するかということでございます。例えば、保護者が見る視点と、生徒が見る視点というのは、また違うかと思えます。例えば、家庭でいえば扱いやすさか、それとも価格なのか、そういった部分はどこが優先なのかということ聞いております。子どもたちにとっては、実際に着ることになりますので、何を求めるのかと、着やすさなのか、それとも快適さなのか、そういった部分で具体的にこういったものはどうかというアンケートを今取ろうとしているところです。生徒のアンケートに関しては、まだ取っている段階ではないので、これから取ろうと考えています。</p>
市長	<p>分かりました。ありがとうございます。</p> <p>何か、ご意見・ご質問ありましたら、お願いしたいと思います。提言とか提案、要望等ありましたら。</p>

郷谷委員	<p>制服がどこの中学校も同じ制服を着用するわけですよね。そうすると制服を見ただけでは、どこの中学校の生徒かが分からないですよね。今度は保護者のほうからすると、もうそれこそ長い年月、いろんな中学校の制服を着たお父さん、お母さんがいらっしゃって、それに愛着があると思うんですが、そういうところを含めて保護者のアンケートを取られるんだらうと思いますけれども、制服だけに限らず、付随してスクールバッグとか、いろんな物が出てきますよね。靴とか体育シャツとかですね。そういう中にですね、例えば、これは仮の話ですけど、スクールバッグの中に校章みたいなロゴマークなんかを付けると、その中学校の昔からの伝統が残るとか、そういうこともあり得るんじゃないかというふうに思ったりするんですけど、そういう細かなことは今後の内容になると思うんですけどですね。前回も、この制服の統一についての資料をもらったんですけど、宮崎市内の檜中学校でしたかね、女の子もさんがズボンをはいているという資料をもらったんですけど、その時に子どもさんの感想が載ってたんですけど、「良かった」と書いてたので、そういうLGBTに配慮したような機能性を含めた制服をきちんと作ってもらうことについては、よろしいんじゃないかと思うんですけど、同じになるものですから、そこに学校の独自性というか、そういうものが入るのかなと考えてもらうと良いです。それは今後の検討課題で良いです。</p>
市長	<p>学校ごとのカラーみたいなことはですね、名札とかバッグとか、各学校のご意見をもらいながらやっていければ良いなと思っております。理想は学校ごとでも良いと思ってるんですけど、まずはコストが上がってしまう、結局、親御さんたちのことを思えば、統一化すると低コスト化できるだろうというところでですね、そういう意味での統一に結果的になると、統一化するのを目的に統一化するのではなくて、というところかなと思っております。</p>
教育長	<p>各学校ですね、通学用のカバンとか、今ちゃんとロゴとか入っているカバンを持っていますし、サブバッグとってですね、スポーツバッグみたいなもの、あれは例えば飫肥中だったら紫色のスクールカラーで、そういうのを今、各学校で用意しているということですね。2～3日前に太宰府市が制服を変えたというのが出てて、基本的な写真で出てたんですけど、それは、文を読むと、各学校の種類を出すためにタイをちょっと変えるとかですね、そういうことをしていくと出ていました。最後に「保護者の要望に応えるために、価格を抑えるように努力した」と書いてありましたので、そういうのを見ると、今後のうちの検討していく中の方向性になるのかなというふうに思ったところでした。</p>
黒木委員	<p>コストを抑える意味では、保護者のほうからすると、どこの学校でも共通した制服だと、おさがりとか、その学校じゃないと着れないというのじゃなくて、日南市全体だったらどこの学校へ行っても、おさがりが活用できるという意味では、今</p>

	<p>よりはちょっと制服のやりとりも、3年なので、サイズアップをする男の子とかは特に、すぐ着れなくなったりして、何かそういうのがあると助かるんじゃないかというのが1つあります。あとは、どっちかと言ったら、子どもたちはLGBTのことを学校で学んだりとかしてるので、保護者とか、おじいちゃん、おばあちゃん、地域の方が、そういう時代になってきてるんだよっていうのを知っていただくことも大事で、「女の子やとにズボンはくとかー」とか、おじいちゃん、おばあちゃんから言われると、やっぱり、そこでもあると思うので、全体で、子どもたちだけじゃなく保護者も家族も全体で、このLGBTの意識を付けていくことが大事じゃないかなと感じます。</p>
市長	<p>両輪でですね、LGBTと機能性もやっぱり大きいと思うんで、両方で。別府さんは、PTA代表としてはどうでしょうか。</p>
別府委員	<p>制服のアンケートが保護者のほうで回ってきまして、周りにいる人たちは、LGBTだから制服を変えるというのが表に出てしまうと、何かちょっと変な方向に行ってしまうよねという形で、時代がこういった時代だから、自由に選べるという形で方向性に話を持っていくのも良いのかなというところで話は聞いたところでした。</p>
崎村委員	<p>確かに、LGBTを意識の中で私たちあるんですけど、それをあまり言ってしまうと、ちょっとおかしくなるというか、そういうのが前面に出てしまうと、いろんな面でおかしくなるのかなと感じるのと、あと、価格の面で抑えるのは良いんだけど、品質も制服を3年間きちっと着る中で、やっぱり自宅で洗濯してっていうのができて、そして品質もある程度きちっとしないと、洗濯した後ちょっとおかしくなったよねだと困るので、そのへんをちゃんとしとかなないといけないかなと思ったところです。あと、インナーみたいなものは、白なら白とか、そういうのを統一してしまえば、指定じゃなくても大丈夫だよみたいな、ある程度、幅を持たせるのも良いかなと感じました。</p>
市長	<p>ぜひ教育委員会にお願いしたいのは、女子は中にしか着込めないとか、着込める洋服が限定されるとか、そういう次元じゃなくて、ユニクロを出したらあれですけど、ユニクロの薄いフリースとかでも、登下校の時とか授業中に寒い時とか、大きく羽織れるみたいな、今までとちょっと違った発想で、中に着ているものは少々薄くて自分で洗濯できて、逆に安価だから1年ごとに毎年、学年ごとに買うくらいの発想ができるくらい安価なものとかですね。今までの制服の概念を取っ払って良いと思うので。ぜひ、ジャンパー的なフリース的なものは、逆に言うと統一したって良いと思いますからね、指定のものとかに。そのへんも含めて柔軟に考えてもらえると良いのかなと思っているところでございます。今後の議論に期待したいと思っています。</p>

<p>市長</p>	<p>次に進めさせていただきたいと思います。 続いて「いのちの教育」の説明をお願いします。</p>
<p>指導主事</p>	<p>続きまして、3ページと4ページをご覧ください。 現在、日南市では「いのちの教育推進事業」というもので、この事業に関しては力を注いでいるものであります。その中で学校教育課が担っている内容として、性教育の手引を作成するところを、この「いのちの教育推進事業」の根幹をなすものとして考えております。</p> <p>これに関しては、目的に書いてあるとおり、子どもたちを取り巻く社会の状況というのは、非常に目まぐるしく急速に発展、変化している中で、教育がそれに付いて行っているのかということから、本当にそういう環境にふさわしい教育、そして子どもたちが、中学校3年生から社会に出る子どもたちもいる中で、そして家庭を持つ子どもたちも、もしかしたらいるかもしれない、その子どもたちが胸を張って、しっかり生きていける、そういう子どもたちを育てるということを大きな目標として、ここの目的を掲げ、そして性教育の手引というものを作成するところに至っております。</p> <p>この取り組みについては、昨年度、令和元年度からもう始めております。昨年度は小学校1年生から小学校3年生までの性教育の指導案のほうを作成しております。本年度は、2番目に書いてありますが、小学校4年生から中学校3年生まで6年間の指導案を作成してしまして、これに関しては、小学校1年生から小学校3年生までと同様、学級活動という時間の中で、年3回おこなうということで取り組んでまいりました。本年度、小学校1年生から中学校3年生まで9カ年の指導案ができあがる予定でございまして、これらを1つにまとめた性教育の手引というものが3月に完成する予定でございます。</p> <p>これまでですね、4ページにありますとおり、小学校1年生から中学校3年生まで、どのような指導をおこなうのかということ、これはまだ案の段階ではございますが、このような観点で整理しているところでございます。この教育を受けた子どもたちであれば、最後の右端にありますとおり、自他を大切にする子どもたちが育つということで、この一覧を作成したところであります。左側にあります、1番上には「生命誕生」と「家族愛」という部分をまず大事にしますと、そして「人のかかわり」、「体と心の変化」、「性」、「情報モラル」、こういったテーマに沿って、これらの指導が連続するように、つなげて一覧として系統表を作成したところでございます。</p> <p>来年度は、この一覧に沿って、各学校で実践してもらうわけですが、ただ単に実践してもらうだけではなくて、この「いのちの教育研究推進委員」に携わった先生方には、各ブロックで研究授業をおこなっていただき、どのような授業をおこなうのかということを実際に公開して、研究を深めていくことにしたいと考えております。ただ作って終わりではなくて、ここからこの指導案が子どもたちに浸透して</p>

	<p>いくかということを見届けた取り組みにしたいと思っております。以上でございます。</p>
市長	<p>ありがとうございました。それでは何かご意見ありましたら、お願いします。 私も質問させていただきますけど、今年度は指導案を作っているだけで、実施はしてないんですよね。</p>
指導主事	<p>昨年度作ったものに関しては実践をしておりますが、ただ。</p>
市長	<p>小学校1年生から3年生までですよ。</p>
指導主事	<p>そうです。</p>
市長	<p>小4以上は来年度からですよ。</p>
指導主事	<p>来年度からです。</p>
市長	<p>で、実際にやるということですね。年間3回でこの「家族愛」とか「人とのかわり」とかを網羅したものをやっていくということですか。</p>
指導主事	<p>網羅したものをやっていくということですね。</p>
市長	<p>あと、辻先生からの情報であったのが、国のほうで「いのちの教育」をスタートするというのは本当なんですか。文科省のほうで。</p>
指導主事	<p>前回、大阪のほうの話を聞いた時にはですね、そのような話も聞きましたが、それが確定というところまではお話を聞けなかったのですが、そういう動きがあるというのはお聞きしました。</p>
崎村委員	<p>現在、結局、情報だけが先走るといえるのか、いろんな情報を今取れるので、ちゃんと教育といえるのか、性教育といえるのかをしていかないと、私たちが育った時代とか、私たちが子育てした時代はこうだったとか、よく聞くのは、私たちよりも上の年代の方たちが「いや、自分たちはこうだった」とか、「自分たちが小さい頃はこうだった」とか言われるんですけど、そういうことを言っているときじゃないと感ずるんですよね。子どもたちの情報量を考えたときに。だから、やっぱり、こういうのはきちんと、すごく難しいことだと思うんですけど、教えるほうも大変だと思うんですけど、やっぱり情報がすごく錯綜する中では、こういうことが大事なんじゃないかなと。子どもたち自身を守るためと、情報だけが先に行ってしまうと、それが一番心配かなと。</p>

黒木委員	<p>やっぱり、この性のことに関しては、親子でもなかなか話しづらかったりとか、子どももそういう年齢になると、なかなか難しくなってくるので、教育っていう場所ですっきりと指導していただくと、保護者としても助かるのが大きく、この「情報モラル」のことに関しては、私たちの時代にはなかったことだし、親も気を付けないといけないことなので、親子で学べる場があっても良いなと思うところがあります。引き続きSNSに関しては、それが性被害とかの問題にもつながるということで、引き続きそういったところ、辻先生の講演もやっぱり保護者には大きく影響し、反響も良かったので、引き続き学校のほうでも、そういうDVDを観る、家庭教育の時間に観たりとか、そういうのがあっても良いのかなと思うところがあります。</p>
崎村委員	<p>やっぱり低学年からしていくというのが一番大事じゃないかなと思うんですね。まだそういう意識のないっていうか。</p>
市長	<p>辻先生の講演を2年に1回ぐらいとか続けてもらおうとか、あれを聞く限りは保護者も先生も危機感を持ち続けるので。3年経ったら忘れられる気がするので。</p>
黒木委員	<p>SNSの勉強を親も家庭教育学級の一環としてすることもあるんですけど、ドコモから来ていただいてだと、やっぱり視点が、辻先生の視点というのがなかなかないというところで、「危ないですよ」、「こうやって守りましょうね」というお話はよくされるけど、またちょっと辻先生の話は、すごく違うっていうか、保護者はすごく感じる場所があるので、子どもたちもだけれど保護者も危機感を感じるお話なので、定期的に、来ていただくのが無理だったら、そういったDVDとかでも観れる時間があると良いんじゃないかなって思いますね。</p>
市長	<p>辻先生は日南市を非常に大事にしてくださっているので、お呼びすれば定期的に来ていただけたところにはあるので、大講演会を毎年やるのも飽きられるといけなないので、2年、3年に1回、ちょうど良いかもしれないですね。</p> <p>今、デジタルネイティブという観点ですね。SNSとの付き合い方みたいなところで、人間関係、男女交際もあるというところをですね、我々の感覚が我々40代ですら今の子と違うので。</p>
教育長	<p>私は児相（児童相談所）に3年間いた経験があつてですね、結局こころへんになるんですね、やっぱり。若くで子どもを産んで預かってくれとかですね、虐待とか、そういうところを目の当たりにしてですね、やはりこういうのは大事だなと。「いのちの教育」というのは、イコール人権教育の一番基本だと思いますよね。これをしっかりしていけば、子どもたちは命を大事にし、ましてや人を大事にし、自分を大事にすることになると思うんで。この9年間というのは非常に大事になる気がして、ぜひ来年以降はですね、小学1年から中学3年までずっと見続けられるような</p>

	<p>感覚でいてですね、日南の子どもたちが中学を卒業するときには、しっかり命のことを考えられるというようなことで、教育委員会としても本気を出してですね、これについては、やらなきゃいけないかなと思っているところです。</p>
市長	<p>やっぱり、望まない妊娠をつくらないというのは、辻先生がいつもおっしゃっているので、もう発生してしまった場合に大変さはあるんですけど、蛇口の元栓を閉めるように「望まない妊娠をつくらない」という言葉が、ある意味、関係者の合言葉になるくらいですね、しっかり意識して。じゃないと性教育は、なにか、ふわっと、きれいな性教育だと、ここまでいかないと思いますので、よろしくお願ひしたいと思っております。</p>
別府委員	<p>プランのほうに、理科とか、家庭とか、学級活動とかいうのが書いてあるんですけど、この時間にこれを学ぶっていう形、理科の時間に。</p>
指導主事	<p>いいえ、これはですね、他教科とも結局関連してくるんで、そことつなぐほうがより効果的な教育になるというような観点から、教科との関連、そして基本的には学級活動を中心に扱っていきます。教科横断的っていう言葉が今ございますが、そういうふうに関連させることで、より強固な学びになるという意識でこれを、一覧を作っているということでございます。</p>
別府委員	<p>例えば、小学校5年生は、5年生の年間の中に何時間かを使って、これを全部、「家庭愛」とか「人とのかかわり」とかやっていくという形で、これから授業日数とか時間数とかをこれから出すというような形。</p>
指導主事	<p>基本的にはですね、学級活動で年間3時間という枠で設定しているんですけども、それが9年間つながっていくという意識でこれを作っております。</p>
別府委員	<p>年間3時間で。</p>
指導主事	<p>年間3時間ですね、はい。</p>
市長	<p>ぜひ、教育委員会の方には「いのちの教育」をどこかの学年に入ってもらって観てもらおうと良いんじゃないですかね。年間3時間でどんなことをしているか観てもらって、すると分かりやすいんじゃないかなと思いますけれども。</p>
市長	<p>この件、いいですか。来月もあるので、また来月、進捗とかお願ひしたいと思ひます。</p>
市長	<p>じゃあ続きまして、GIGAスクール「1人1台端末」について、説明をお願ひ</p>

<p>学校教育課長補佐兼教育係長</p>	<p>します。</p> <p>学校教育課の高妻です。よろしくお願ひします。私のほうから説明をさせていただきます。</p> <p>このGIGAスクールにつきましてはですね、皆さまご存じのとおり、国のほうが前倒しで本年度中に整備をおこなっているところです。日南市においても、現在、学校内の無線LANの整備を1月末を目指して今いろんな工事をおこなっています。タブレットについても、1人1台で全小中学校に2月末を目途に配備しようということにしております。順調に準備を進めているところでございます。</p> <p>資料は5ページにございますが、こちらについてはハード面というよりもソフト面の部分で、今、現在、日南市の教育研究所において、4月以降の授業のあり方について検討をしてもらっているというところのご報告をしたいと思っております。</p> <p>研究所につきましては、市内の先生方10名で構成しており、月2回程度、そういった研究をおこなってもらっていると、内容は、タブレットを活用した効果的な授業のあり方というところで研究をしてもらっています。本年度と来年度、2カ年です。この中で、これまでに、どういったタブレットが良いのかなというようなことも、いろいろご意見いただいて、その意見を踏まえて、今回、日南市はiPadを導入するということも決定しております。</p> <p>そして、端末が導入されてもなかなか使いこなせないという、当然、課題もあります。そういった意味で「ロイロノート」って、こちらに書いてありますが、授業支援ソフト、学校の先生が分かりやすく使いやすいソフトを導入するというところで、今進めておまして、この研究所においても、このロイロノートを使った授業はどういったものができるのかというところを中心に研究してもらっているところです。四角内に書いてる部分でですね、こういった内容についてを研究してもらっています。</p> <p>今後は、1月に北郷小中学校のほうで、そのタブレット、ロイロノートを使った授業を実施するというところで、今予定しています。北郷小中学校はモデル校ということで、いろんな部分で協力をいただいております。そして、その後、2月、3月には、そういった研究所でいろんな研究したものをアイデア集、こういったものを各学校へ配布したり、教員の研修をおこなっていくと考えております。</p> <p>それで、ロイロノートとか、こういったものがなかなかピンと来ないのかなと思って、短い1分程度の動画を用意しましたので、どういった授業がおこなえるかイメージを持っていただければと思いますので、ご覧ください。</p> <p>(動画を視聴)</p> <p>ちょっと短い動画なんですけど、先生と子どもたちがタブレットでつながって、先生がいろんな教材を出して、それについて子どもが答えて、それをまた集約して大きな画面で見たりとか、もしくは、子どもたちがいろんな資料を作って問題を出して、それをまた集めて、そこでプレゼンをしたりとか、協同で学習をしたりとか、そういったいろんな活用ができるソフトになっております。こういったものを活か</p>
----------------------	--

	<p>しながら、授業を4月以降は進めていくと、そういうふうを考えております。説明のほうは以上になります。</p>
市長	<p>この件について、何かご質問等ありましたらお願いします。</p>
郷谷委員	<p>このGIGAスクール構想についてはですね、大人社会ではプレゼンをしたりとか、オンライン会議とか、もう当たり前になっているんですけども、そういったことを子どものときからですね、1人1台端末を利用した学習をするとすると、そういうスキルが小さい時から身に付くので、将来非常に役に立つようなことの学びができるんじゃないかということで、国からの補助もあるんでしょうけど、新しい文房具ができたような感じがしますけど。そういったことで進めていただけると、ありがたいです。</p>
黒木委員	<p>質問なんですけど、パソコン自体は、もう授業の中では取り扱わなくなるんですかね。</p>
教育部長	<p>基本的には、パソコンは使わないような形になります。それぞれ、タブレットのほうにもキーボード等が付いていますので、プログラミング等を含めて、そっこのほうで学んでいくということになるかと思います。</p>
黒木委員	<p>各学校、パソコンを撤収というか、なくなっていくということですか。</p>
教育部長	<p>今あるやつについては、そういった方向になるんじゃないかと思っています。</p>
市長	<p>タブレット自体がパソコンなので。</p>
黒木委員	<p>特別、その、パソコンの授業みたいなのが、私たちのときあったじゃないですか。ああいうのがもうなくなって、触れ合っていくことで学ぶという形の指導になっていくんですか。</p>
教育部長	<p>はい、そうですね。1番分かりやすいのが、いろんな調べの学習といった部分ですね。そういった部分がまずできてくるし、教科書のほうにQRコード等があって、いろんな情報が入ってくるとか、いろいろ早くなってくるんじゃないかと。</p>
別府委員	<p>今聞いているところによると、タブレット自体は学校預かりでという形になっていると思うんですけど、ゆくゆくは生徒が持ち帰って宅習でも使えるような方向性で行くものなんでしょうか。それとも、しばらくは学校でという方向でやっていくのか。</p>

<p>教育部長</p>	<p>当面は、学校預かりということで検討はしております。と申しますのが、やっぱり家庭に帰っても、そういった通信がないというのもあるので、そうしてしまうと差ができてしまう、基本的には、例えば、コロナで休校になった場合、前回、学校預かりというような分もしました。そういった考え方なので、持って帰って家でする人もいれば、そういった通信環境がない人については、学校預かりという部分で学ぶといった方法も考えられるのではないかと。ただ、4月から始まりますが、いきなり全部ば一っと思えるのかと言ったら、到底使えないと思うので、まずは先生方、児童生徒を含めて、そこの入りの部分から少しずつでも学んでいくと良いかなと思っています。</p>
<p>郷谷委員</p>	<p>先生方の研修もあれですよ。</p>
<p>教育長</p>	<p>その件に関していいですか。やっぱり、こういう機器が入って、子どもたちの問題ではなくて先生たちの問題なんですよ。いかにして使っていくか。それで、来年から2年間は、各学校、毎年、研究課題というのを設けて、毎年1年間研究するんですけど、各学校、来年。再来年は、このiPadを使った授業づくりというのをやってもらって、この研修というのは毎週水曜で基本的にだいたい見ますので、その中で年間を通してやっていく。それに合わせて、例えば授業研究会とかやりながら、各学校で使う先生方のまずスキルアップをしてもらうということを考えています。でないと正直、iPadが入ってきて「あーどうしようか」と思ってる先生もいらっしゃると思うんですよ。その先生方の不安を払しょくするために、年度末には全体研修会もしますし、年が明けたら各学校でやっぱり研究していくということになると思うんです。それで通していこうと思っています。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。よろしいですかね、この件は。 次に行きたいと思います。「就労支援ソリューション、SNSなど」ということで、「その他」ということで、まず、就労支援からよろしくお願いします。</p>
<p>学校教育課長補佐兼教育係長</p>	<p>それでは、私のほうで説明をさせていただきます。資料は6ページになります。こちら、たくさん書いてありますが、このソリューションにつきましては、昨年度、中学卒業者、もしくは高校中退者の就労支援ができないかというところで、日南商工会議所等と連携をしながら、そういった対象の子どもたちへの支援をおこなっていきこうということで組織を昨年度設置したというものでございます。</p> <p>資料を付けておりますので、それ以降、7ページとか8ページとかも後ほどご覧いただければと思っております。11ページには広報誌の記事も付けております。このあたりに概要が書かれていますので、ご覧いただきたいと思っております。</p> <p>6ページのほうは、その経過ということで、たくさん書いてありますが、実際、昨年度立ち上げてから、お1人がスーパーとむらで体験学習を実施した後に就職ということで、1件事例があったんですが、残念ながら8月に確認をしたときにはも</p>

	<p>う、7月には退職をしたということで、現在はこれを利用して就職している方はいらっしゃるんですが、やはり、いろんな情報を関係部署と共有して、希望されているかた、こういうのに興味があるかたを、どんどん情報を集めて、そして、体験学習につなげていくということで、おこなっていきたいと思っておりますが、なかなか、そういう引きこもっている家庭の情報がないということもあって、今のところは動きがなかなかないんですが、今後も地道に続けていければなと思っております。説明は、簡単ですが以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>これにつきましては、これの利用者がいっぱいいるから良いというものではなくて、もしものときに受け皿となることが大事なので、件数が多い少ないというのは、大きなところではないかなと思っておりますけど、また次の、もしものときに機能すると良いのではないかなと思っております。</p> <p>この子に関しては、今の時点では一旦、支援としては終わりということになるんですか。</p>
<p>学校教育 課長補佐</p>	<p>本年度も、継続して来年度も、中卒者等の情報をいただきながら、続けていきたいと思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>この子に対しての支援は。</p>
<p>学校教育 課長補佐</p>	<p>当然、この子に対しても、継続的に支援していきます。</p>
<p>市長</p>	<p>よろしいでしょうか。では、次のテーマの「SNS」に移りたいと思います。</p>
<p>指導主事</p>	<p>では、12ページをご覧ください。「SNSの現状」ということで、先ほども「いのちの教育推進事業」の中でも、情報モラルの件が出ましたが、この中で、昨年度取った12ページの下グラフですが、これ実は、不登校の児童生徒の傾向でございます。年々右肩上がりになっているのが確認できるかと思えます。続けて13ページをめくっていただくと、それとスマホの所持率を重ね合わせたときにですね、この右肩上がりの傾向が、中学生の不登校の傾向と重なるといいますか、スマホの所持率が増えるにしたがって、ある意味、不登校が増えると、こういう現状も見られます。</p> <p>子どもたちは、先ほど市長からもありましたとおり、デジタルネイティブ、まさにデジタル社会の中において、もうデジタル化の渦中の中で子どもたちは生活しているという、そういった子どもたちに対して、では、日南市はどういうことを伝えているかという、基本的には、スマホの所持は原則、保護者が100%責任を取るといことで、原則、学校は持ち込み禁止ですよという話をしています。</p> <p>しかしながら、こういう現状であるにもかかわらず、14ページを見れば分かります。</p>

	<p>おり、こういったことが起こり得ますということで、今後、可能性としては、例えば、写真の送信をし、結局、写真が拡散してしまっって手に負えないとか、はたまた、14 ページの下のほうにあるとおり、LINE とかインスタグラムとかよく聞く SNS のアプリを利用した、そういった人間関係のトラブル、こういったことも日南市でも十分起こり得る現状ではございます。</p> <p>そういう現状に対して、学校教育だけではなくて、先ほどから話題にも挙がっているとおり、家庭での子どもたちへの指導、お話というところが充実していかなければ、こういう問題には対応できなくなっていくのかなというふうに教育委員会では考えております。</p> <p>その一環となるのが「いのちの教育推進事業」の中の「情報モラル」の部分になってくるかと思えます。そういった形で、いろんなところからの子どもたちへの支援、指導というのが必要になってくるかと考えております。以上でございます。</p>
市長	<p>何かご意見、ご質問がありましたら、お願いしたいと思えます。</p> <p>「いのちの教育」の中で、どこかの学年では厚めにやってもいいかもしれないですけどね、密接に関わり合うわけなので。ダイレクトメールとかメッセージとの付き合い方とか、人間関係の作り方とかもあるので、どこか、中1なのか中2なのかちょっと分かりませんが、どこかの学年の「いのちの教育」では厚めにして、SNSについて特化する学年を作るというのもあるのかなとは思えます。</p> <p>実際、中学校に持ってきている子は、いるんでしょうか。持ってきてはいけなしんじょ。</p>
指導主事	<p>持ってきてはいけません。原則として禁止なので、持ってきている子どもは、いないということです。</p>
市長	<p>これ、30 数%というのは、家で自分用を持っているということですね。</p>
指導主事	<p>この資料が大変見にくくて申し訳ないんですが、小学生がまだ 30%、40%台ということです。これはもう自分を持っていると答えた子どもたちの数ですけど、これが中学生になると、はるかに7割、8割と。</p>
市長	<p>そんなにいるんですね。小学生で 30~40%も持っているんですね。</p>
指導主事	<p>小学生でも、もう結構な確率でもう所持をしております。</p>
崎村委員	<p>2~3 日前なんですけど、叔父から LINE が来たんですね。「新しく登録しました」みたいな。「スマホ変えたんですね。LINE 始めたんですね」って返事したんですよ。そしたら、来たの返事が。叔父のひ孫のお母さんが、だから叔父からすれば孫が「すみません。ひ孫の名前で登録しました」みたいな感じの。だから、もしかしてこう</p>

	<p>いうの、本人じゃなくっても、おじいちゃんの名前で登録して、結局、電話番号を登録しているから私のほうへ来たのであって、こういうの、今聞いてて、あるかもなと思いました。</p>
市長	<p>親のをを使って勝手に友達とやりとりしているパターンもありますもんね。</p>
崎村委員	<p>親公認で、おじいちゃんの分のID使ってますみたいな。</p>
教育長	<p>所持率なんかも出てますけど、これをずっと上回るくらいの使用率、親のを触ってます、だから中学生になったらもう100%、小学生もそれに近い数字を触っているのかなということじゃないかなと思っています。</p>
黒木委員	<p>私も最近、自分の携帯にLINEの「お友達ですよ」、電話番号で友達に、みたいなのが小学生の子から、電話番号をお母さんがどういうふうにしてるのかは分からないけど、もう小学生の子から来るんですよ、LINEのお友達。今、結構、小学校低学年の子たちでも、中学年の子たちでも持っていて、もうそのLINEをやっているんだなというのをすごく実感。</p>
崎村委員	<p>親だったり、おじいちゃんだったりのIDを使ってるんだらうなというのが。</p>
黒木委員	<p>分からないですよ、それがね。自分の携帯を持っている子も、タブレットなのかもしれないんですけど、多いなど。</p>
市長	<p>持つのは、もう持つ時代なので、リテラシーをどう育てるかということに、しっかりやってもらうしかないですね。「いのちの教育」が正しいテーマで良いのかなと、それに尽きるのかなと思います。学校としては、ドコモに来てもらったりとか、そういうこと以外で何かやってるんですか。そういったことも全部の学校で実施してるわけじゃないんでしょ。ドコモとかKDDIに来てもらうとか。</p>
指導主事	<p>そうですね、各学校で。この前はどこかの中学校でドコモを呼んでましたけども、そうやって危機感のある、まあ学校によって実態は違いはあると思いますんで、そこはもう独自でしている現状かと思います。</p>
市長	<p>イベント的にやっているだけで、ない人はぜんぜんない、学校でやらなければ、やらないまんまなんですよ。</p>
黒木委員	<p>各学校、家庭教育学級というのがあって、その時間で、そういう先生を呼んでというのをされてる学校が。</p>

市長	家庭教育学級って、生徒も親もじゃないでしょ。同時に聞いているとか。
黒木委員	同時じゃないです。
市長	親だけでしょ。
別府委員	親だけです。
黒木委員	また別に、子どもたちは子どもたちの時間で、来ていただいて指導していただいているみたいな話は聞くんですけど、同時っていうのはあんまり。
教育長	あんまりないですね。
黒木委員	うちの学校は親子であったんですけど、大事ですよ。共有して家でもそんな話ができるっていうのは。
市長	すべて「いのちの教育」に絡めてあれなんですけど、「いのちの教育」の中でも親子一緒にやる時間というか、参観日でやる、1コマ一緒にやってみるとかも、いいかもしれないですけどね。
黒木委員	先日、参観日で、中学校1年生なんですけど、うちの息子が。「地域の方と語ろう会」という時間が1時間設けられていて、私ちょっとゲストで入ることになって、いろいろ子どもたちから質問があって、「どんなことが人生、今まで緊張しましたか」とか子どもたちから質問があったときに、私は「出産のときが一番緊張するし、一番感動した話です」というのを子どもたちに話したら、子どもの中で何人かの生徒が「自分のお母さんもそう思ったのかなって思いました」とか。実際、私はまだ産まれて1カ月半ぐらいだったんですけど、赤ちゃんを連れて行って「大変です。こんな小さくて大変です。みんな、こんな時期がありました。こんなふうにお母さんたちは抱っこして、仕事して家のこともしてましたよ」というのを仰々しくじゃなくて、友達と話すような感覚で、子どもたちも「かわいいー」と言いに来るから、「かわいいやろー」と。こういうのが子どもたちには、ずっと入ってくるころがあったみたいで、先生からお便りで「そういう感想を持った子どもが何人もいました」というお話を聞いたので、良かったなと思いました。そういう時間があると良いかもしれないですね。
市長	素晴らしいですね。「赤ちゃん教室」そのものですね。 全体を通して、何かありましたか。今のも含めて。
総合政策	資料なんですけど、12 ページと 13 ページのグラフというのは、文科省が出してる

部長	グラフになるんでしょうか。確認なんですけど。
指導主事	<p>12 ページは日南市のものでございまして、状況報告というものがございまして、その中で不登校の数を毎年把握しているんですけども、あ、すみません。</p> <p>これは、このグラフ自体は、日南市のものでございまして、上のタイトルのところに「文部科学省」と書いてるのが、そこが間違いでございまして、このグラフ自体は日南市の現状です。</p>
総合政策部長	<p>この 13 ページの上のグラフ、タブレットの話じゃないんですけど、スマホ等の普及率が 100%に近づくというのは間違いはないんで、それと不登校との相関をですね、誤ったメッセージにならないように、説明のときには気を付けられたほうが良いなと思ひまして。日南市は、データを駆使する自治体を目指すということですので。相関であることは間違いでないんですが、保護者のかたに説明する際に、ちょっと気を付けたほうが良いという気がしました。</p>
市長	そのほか、全体を通して、これも含めて何かありましたら。
黒木委員	<p>感想なんですけど、やはり時代の流れで、LGBTにしても、LGBTというところよりも自由というところが、自由という感覚で物事を考えられる、そして、GIGAスクールもそうだし、SNSもそうなんだけど、私たちの時代とは違う時代がやってきているので、大人も1から学ぶという気持ちで、今から私も1人の親として、やっていきたいなと改めて思ひました。</p>
市長	教育委員としては最高ですよ。任期の期間中に新たな子どもをつくられて、いつまで経っても親の目線。
黒木委員	この子の時代には、こういう波が来ているんだなというのを。
崎村委員	赤ちゃんが育つ中で、学校に上がる頃には、時代はがらっと変わってるかもしれないし。
市長	そのほか、全体を通して何か。
別府委員	<p>先日、特別支援センターのほうに参観に行かせてもらひまして、不登校者がいてそこで勉強するというシステムがあつて、すごく素敵なことで、とても必要なことだと思ひなんですけど、利用人数が少ないということもあつて、そこに通える仕組みづくりをしていかなければいけないと思ひて、今回、タブレットが入るということで、支援センターのほうでもタブレットが使える環境っていうのをしていくと、学校ではできないけど支援センターでもできるようだと、利用人数も増えてくるん</p>

<p>市長</p>	<p>じゃないかなと、そこらへんもご検討いただけると良いのかなと。</p> <p>SNSでの相談も大事なのかもしれませんね。今度、社協がやる「こども宅食」では、そういったSNSも含めて申し込みを受け付けるというので、三股なんかは、月～金の平日以外の申し込みのほうが多いというがあるので、相談窓口として、それ以外をつくるというのは大事かもしれませんね。受け取るのが夜中でも、その日に夜中に返さないといけないというものではなく、朝返せば良いので、夜中の気持ちの吐露を受け止める場所があるというふうに、いろいろな場所があると、うまくやってもらえれば良いのかなと思いますけどね。</p>
<p>市長</p>	<p>そのほか、何でも結構でございますけども。</p> <p>はい。ないようでございますので、次でございますけど、確認事項でもらう前にですね、ぜひ、次の12月22日は、制服のアンケート結果が出ていると思いますので、制服の説明のときをお願いしたいなと、議題として。よろしくお願ひしたいと思ってます。あと、できれば「いのちの教育」の、何か象徴的な学年の指導案とかがもしあれば、聞いてみたいような気持はありますけどね。次回ですね。特に、SNSと絡めたところとか。生野南で小学校でやってたような授業を、日南で同じところはこういったことをやってるのが見たいので、その指導案を説明してもらおうと良いかなと思ってますけど。</p> <p>ということで、進行としては以上ですかね。予定していた時間に近づきつつあるんで、一応これで終わらせていただいて、教育委員会のほうで活発なご議論をお願ひし、次の1カ月後ですね、先ほどのテーマでやらせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>ということで、事務局に進行をお願いしたいと思ひます。</p>
<p>総務・危機 管理課長</p>	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>先ほど市長からもありましたが、会次第にあります「確認事項」でございます。第2回の会議を、12月22日（火）の13時30分から14時45分に、本日より同じこの会場で予定しておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>会次第では「その他」、5番にあります。事務局からは特にはないです。教育委員会の事務局からもないということでございますので。</p> <p>本日は、貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。</p>
<p>市長</p>	<p>すみません。生涯学習課長も来られているので、南郷大島ミュージアムが大盛況で、教育委員会事業ですので、何か一言あればお願ひします。</p>
<p>生涯学習 課長</p>	<p>ご協力をいただいております。昨日までの3連休が終わった時点で、4,000人を超えることができました。お力添えをいただいたおかげです。どうも、ありがとうございました。</p>

<p>市長</p>	<p>今までで、イベントとかやってすごく多かった年の年間で4,000人から5,000人ぐらいらしいですね、過去最高の。それが今回、1カ月ちょっとで4,000人ということで、もう、ほぼ20～30年で最も人口密度と言いますか、あんなに島に人が集まったことはないんじゃないかというくらい、人が行ったみたいなんで、ほんと、皆さまのご協力のおかげでした。</p>
<p>総務・危機 管理課長</p>	<p>それでは、以上をもちまして、第1回目の日南市総合教育会議を終了させていただきます。どうも、お疲れさまでした。</p>